

1.3.3 本検討におけるメガトレンドについて

(1) 本検討におけるメガトレンド概要

将来像案（達成すべき姿、シナリオ）の検討に向けて、本検討では既存の予測調査等で示されたメガトレンドを、①地政学、②都市／地域／人口／コミュニティ／貧困／モビリティ、③健康・医療・介護、④資源／エネルギー／環境・気候変動、⑤雇用・産業等の社会的課題に係る5つのカテゴリーに分類した。

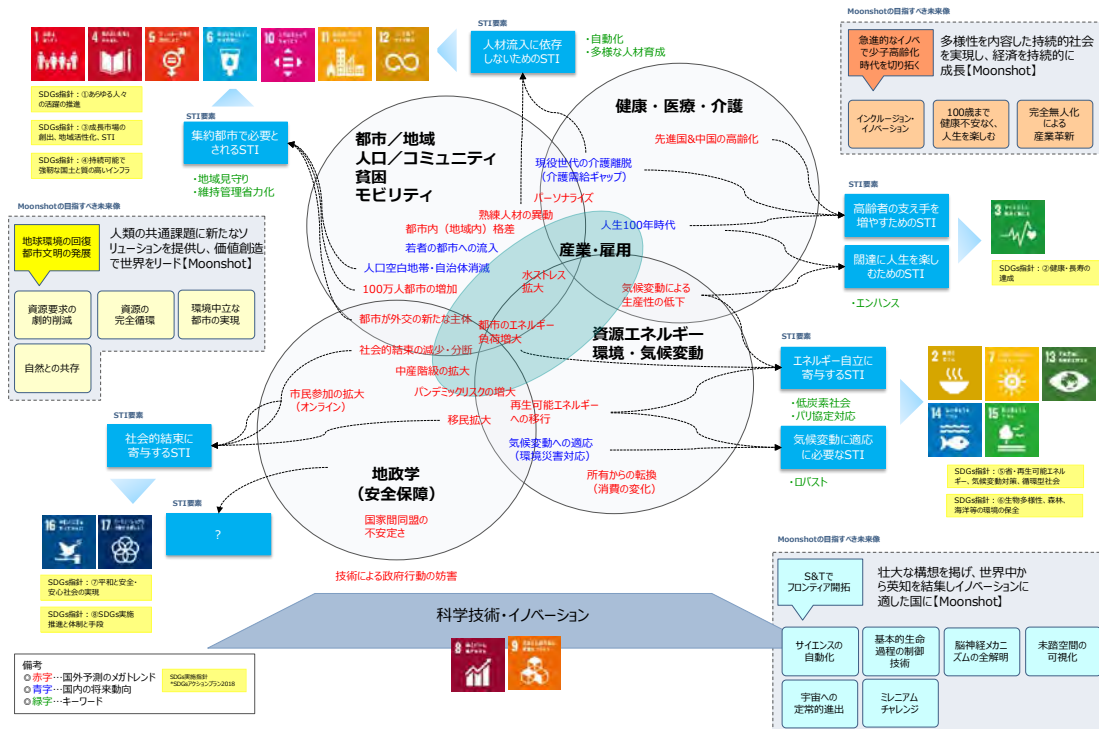


図 5 2030 年の社会的課題に係るカテゴリー別のメガトレンド

出所：未来工学研究所作成。

以下、カテゴリー別のメガトレンドと関連の将来社会に係る推計情報等を示す。

(2) 人口／都市／地域／コミュニティ／貧困／モビリティについて

1) 人口推移

世界人口は、2030 年には 80 億人に近づいており、伝統的な先進国の人口増加はごく一部にとどまる。欧米等の先進国のうち、欧州は 2030 年頃をピークに減少局面に入る。北米地域は、2030 年以降、人口増加が緩やかに推移していく。世界人口の増加は、2030 年以降もアジア、アフリカが増加を牽引するものの、アジアは 2050 年頃より減少局面に入る。一方で、アフリカの人口は増加する。出生率は、過去数十年にわたり、多くの地域で低下してい

る。将来的な人口減の要素となる。

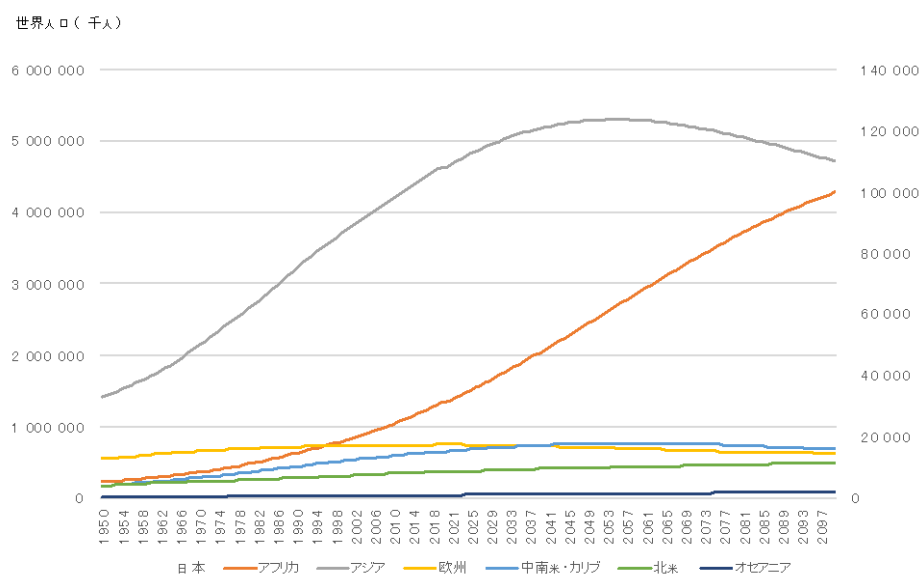


図 6 世界の主要地域の人口推計と日本の人口（世界の主要地域の推移）

出所：World Population Prospects 2019 より未来工学研究所作成。

注）網掛け部分は、日本の人口推計（中位推計）

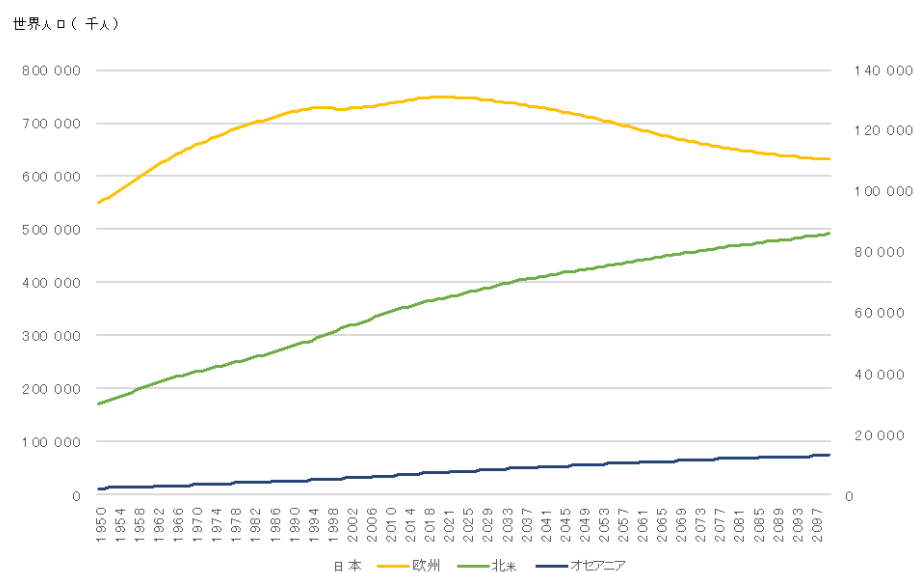


図 7 世界の主要地域の人口推計と日本の人口（欧米の主要地域の推移）

出所：World Population Prospects 2019 より未来工学研究所作成。

注）網掛け部分は、日本の人口推計（中位推計）

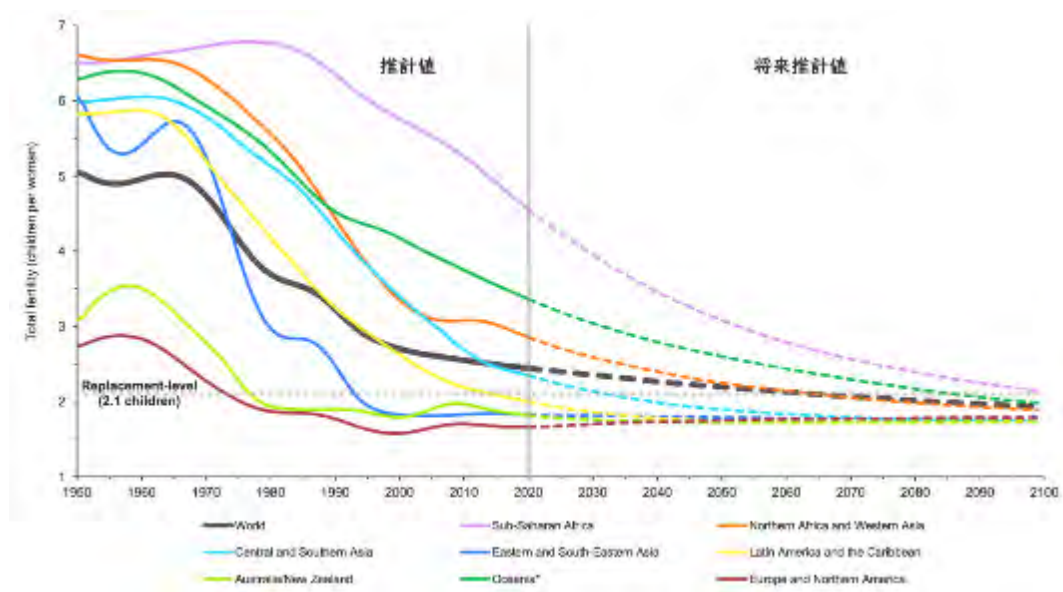


図 8 SDGs 地域別の合計特殊出生率（女性一人あたりの出生数）
〈1950-2020 年の推計値、2020-2100 年中位推計〉

出所：World Population Prospects 2019 Data Booklet

我が国の人口については、2010 年をピークに減少し、2040 年には人口が約 1 億 1 千万人を下回り、毎年 100 万人近く減少するとした。2050 年には約 1 億人まで減少する見込みとされる。また、100 年後には、現在の 1/3 まで急減することも示唆される。人口構成については、出生率が回復した場合は人口減少が収束して、1 億人程度で安定するとした。我が国の人口減少・高齢化社会の経験は、アジア諸国より約 20 年先行している。

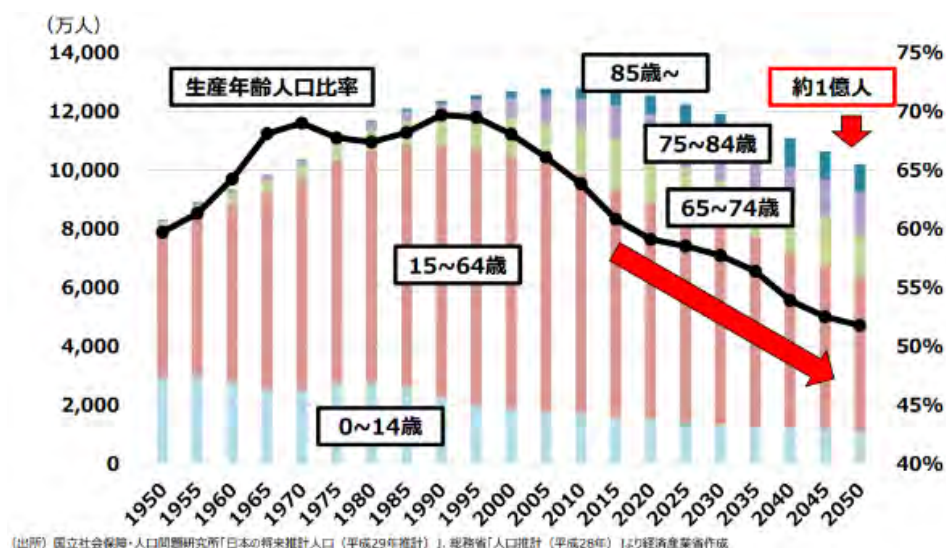


図 9 我が国の人口推計及び生産年齢人口の推移

出所：経産省「2050 年までの経済社会の構造変化と政策課題」（産構審・2050 経済社会部会資料）
（2018 年）

2) 少子高齢化

高齢化社会は、先進国のみの事象ではなく、2030年には、中国やインド等の新興国においても高齢化の局面に入りつつある。65歳以上の人口割合は、東アジア及び東南アジアで1990年の6%から2019年は11%へほぼ倍増し、ラテンアメリカ・カリブ海地域で1990年の5%から2019年は9%に増加した。2019年から2050年までの間に65歳以上人口は世界全体で120%増（約7億人から約15.5億人へ）⁷。中国は、2050年には65歳以上人口が26.3%（2017年時点で10.6%）に増加する⁸。

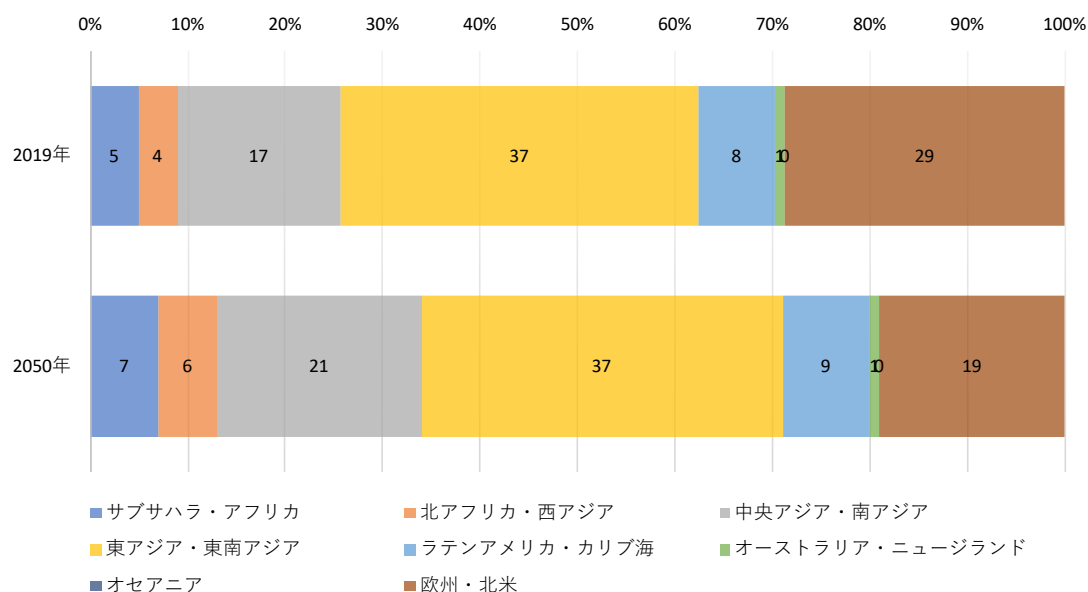


図 10 地域別 65 歳以上の人口分布（2019 年及び 2050 年）【割合：%】

出所：United Nations(2019), “World Population Ageing 2019”より未来工学研究所作成。

一方、我が国では、生産年齢人口の減少が続き、2030年代に入ると減少幅が拡大する。2038年になると、第二次ベビーブーム世代が65歳を迎え、生産年齢人口の減少幅はさらに拡大する。一方で、2040年代前半より、高齢者世代も団塊の世代を中心に減少期に入り、人口減少が加速する。

出生率については、向上が見られず、2016年に初めて、100万人を割り込んだ。

⁷ United Nations (2019), “World Population Ageing 2019”.

⁸ OECD Health Statistics 2019 より (https://spc.jst.go.jp/experiences/coverage/coverage_1931.html) .

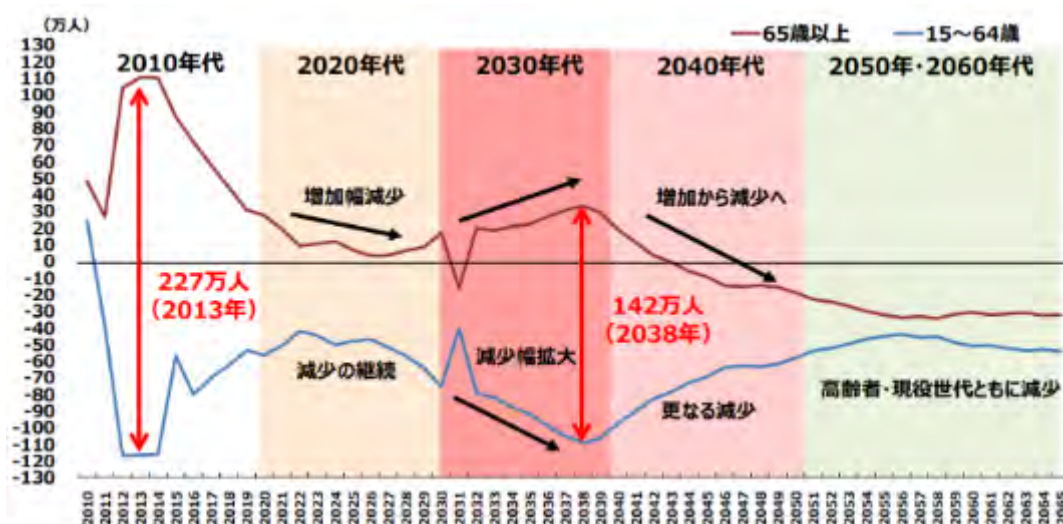


図 11 生産年齢人口の増減と 65 歳以上人口の推移

出所：経産省「2050 年までの経済社会の構造変化と政策課題」（産構審・2050 経済社会部会資料）（2018 年）

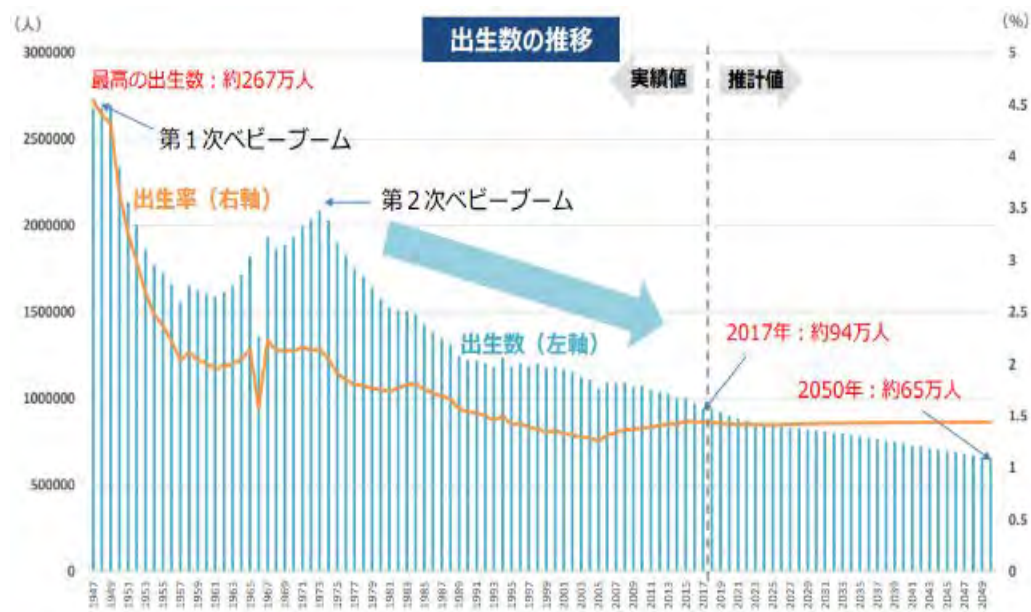


図 12 出生数の推移

出所：経産省「2050 年までの経済社会の構造変化と政策課題」（産構審・2050 経済社会部会資料）（2018 年）

3) 都市と地方、都市への人口集中、人口空白

人口の大半は都市に居住するとされ、世界の 2/3 が都市に居住する。2015 年から 2030 年にかけて人口増加の 20%は、都市において生じるとされる。

都市人口は、1990 年から 2014 年にかけて急増、2030 年には更に増加することを示す。人口 50 万人未満、100 万人未満、500 万人未満、1 千万人未満の規模の都市数はいずれも増加する。また、人口 1 千万以上のメガシティの数は現在の 28 から 41 まで増加する。

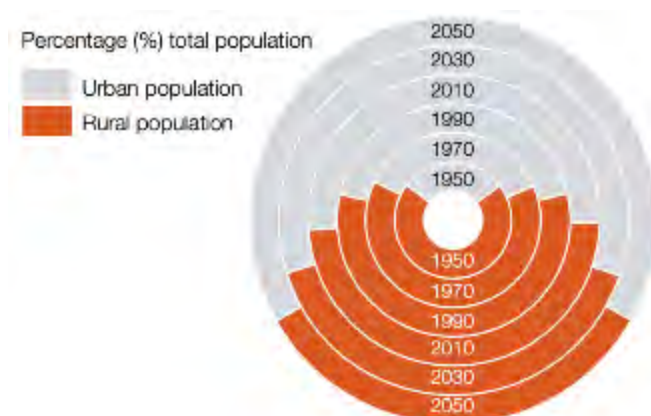


図 13 都市—地域の人口割合（20 年毎）

出所：英国国防省(2018), “Global Strategic Trends- the Future starts today”

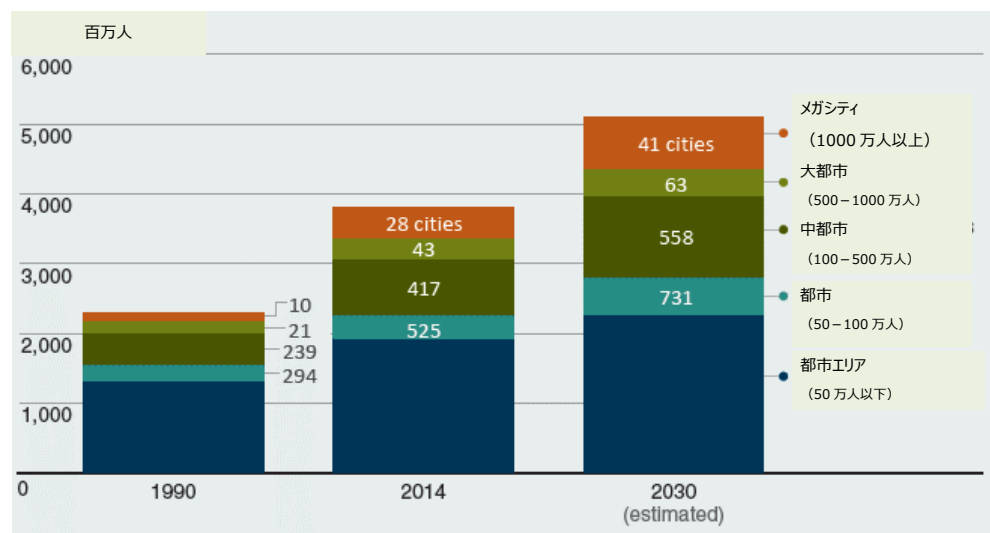


図 14 世界の都市人口及び都市数の推移（都市規模別：百万人）

出所：出典： National Intelligence Council. Global Trends - Paradox of Progress. January 2017. NIC 2017-001. p.10.

我が国の地域別の将来人口を見ると、2045年には7割以上の市町村で人口が2割減少する。また、65歳以上が人口の50%以上を占める市町村は3割に上る。少子高齢化の進行は、郊外部から進展し、2030年頃より都市の規模別に高齢化の状況が変化していく（図17）。

都市の様相については、2040年までに人口が増加する都市は、100万人以上の都市ではさいたま市、川崎市、福岡市の3市にとどまり、50～100万人規模の都市では川口市、大田区、世田谷区、杉並区、板橋区、練馬区の6特別区・市にとどまる⁹。

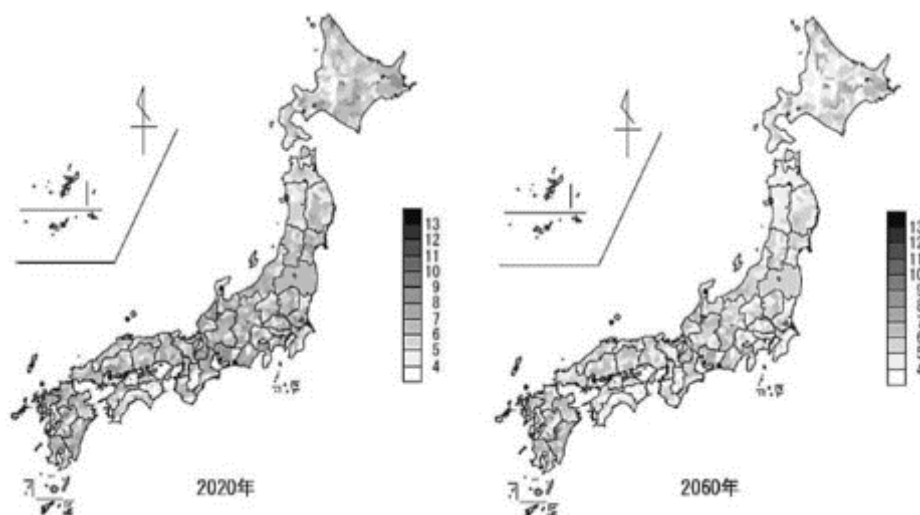


図15 地域別人口動態

出所：経産省「2050年までの経済社会の構造変化と政策課題」（産構審・2050経済社会部会資料）（2018年）

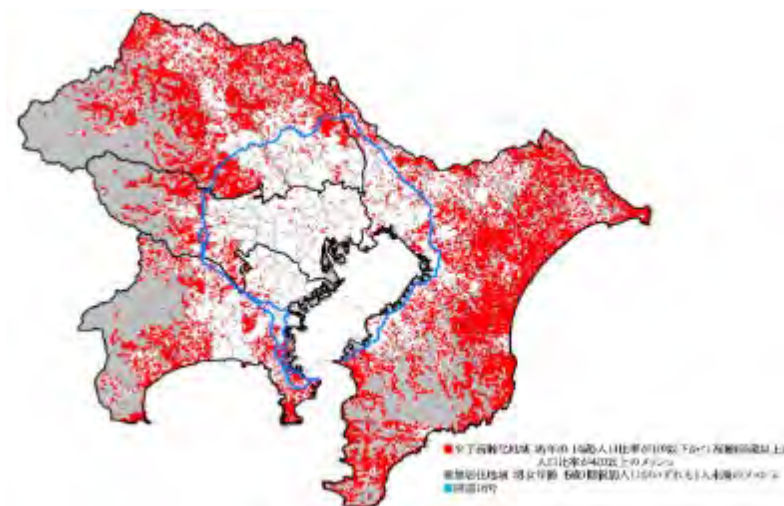


図16 2050年の東京圏の少子高齢化地域

出所：国土交通省「国土の状況変化①について」、国土の長期展望委員会第1回資料（2019年10月30日）

⁹ 総務省（2018）「自治体戦略2040構想研究会 第一次・第二次報告の概要」。

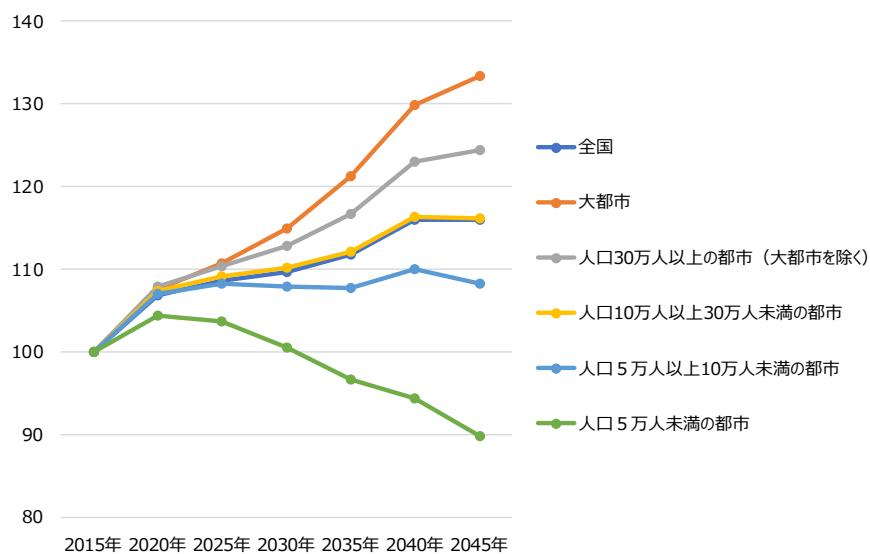


図 17 都市規模別にみた 65 歳以上人口指数（2015 年＝100）の推移

出所：内閣府『令和元年版高齢社会白書』より未来工学研究所作成。

人口空白地域は、地域拠点の減少に伴い生じる。具体的には、病院数の減少（生活基盤）、学校数の減少（学びの拠点）等が影響する。



図 18 人口 100 人当たりの主な公共施設の延床面積（1 立方メートル/人）

出所：総務省「自治体戦略 2040 構想研究会（第 4 回資料（インフラ―公共施設／公共交通）（平成 29 年 12 月）

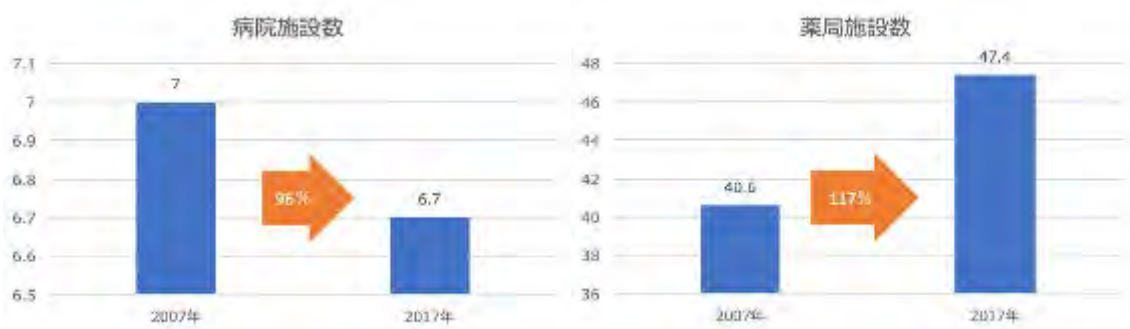


図 19 病院数の減少と薬局数の増加（人口 10 万対施設）

出所：厚労省「（中医協）医療提供体制を取り巻く現状等について」（H31 年）

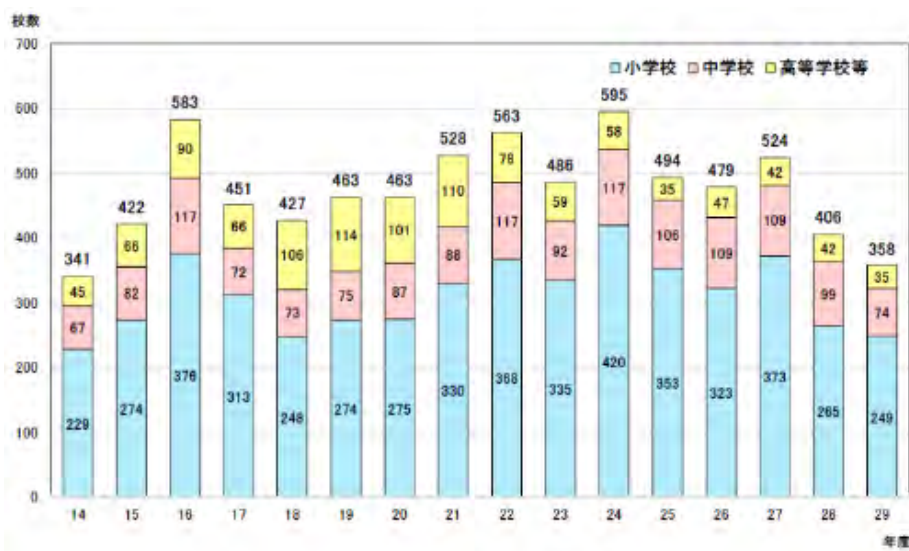
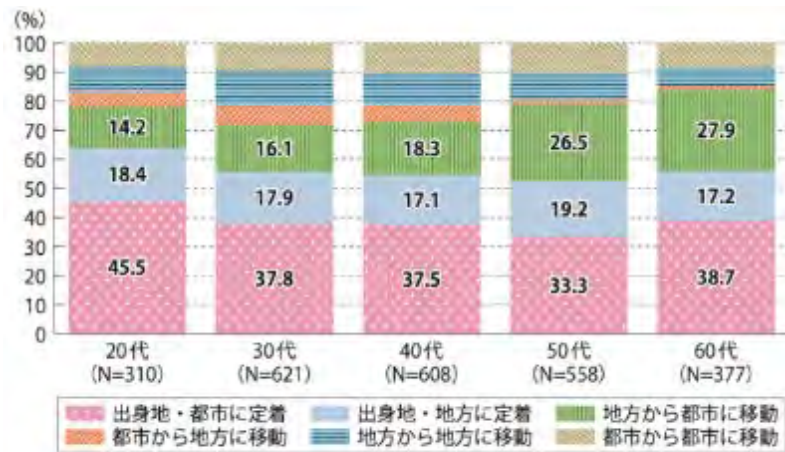


図 20 公立学校の年度別廃校発生数の推移

出所：文科省「廃校施設等活用状況実態調査の結果について」（平成 31 年 3 月 15 日）

都市への人口集中は、若者だけでなく、年代が上がるごとに都市に移動する（各世代の地域移動）。これらから、郊外部より少子高齢化が進行する。2045 年には、7 割以上の市町村で人口が 2 割減少することが懸念されている。



資料) 独立行政法人労働政策研究・研究機構「若者の地域移動—長期的動向とマッチングの変化」

図 21 各世代の地域移動

出所：国交省『国土交通白書 2018』

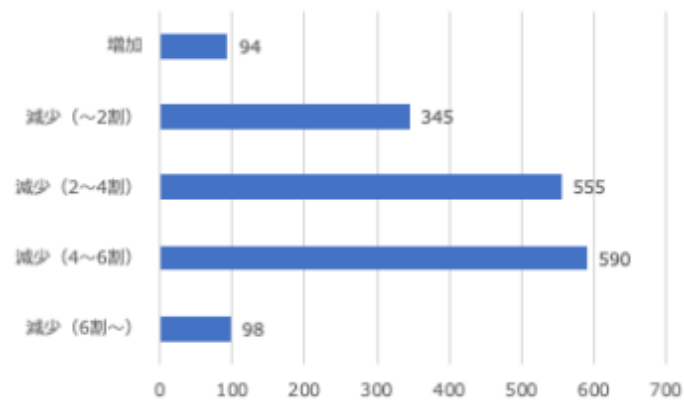


図 22 2045 年における市町村人口分布 (対 2015 年比)

出所：経産省「2050 年までの経済社会の構造変化と政策課題」(産構審・2050 経済社会部会資料)(2018 年)

(3) 健康・医療・介護

世界的に高齢化が進展し、2050 年に向けて、開発途上国においても 80 歳以上人口の増加が見られる。

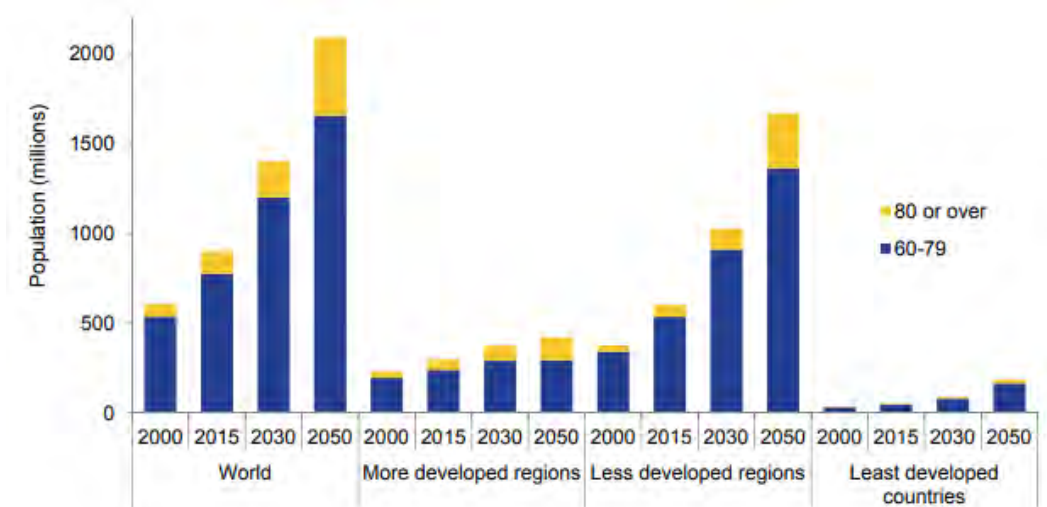


図 23 開発国別 60～79 歳及び 80 歳以上の人口推移（百万人）

出所：United Nations, “World Population Ageing 2015”.

我が国は、高齢化社会に現実的に直面しつつあり、2050 年頃には 100 歳以上の高齢者が 50 万人を超える見通しがある。また、我が国の平均寿命の推移を見ると、高度医療の発達で、平均寿命は大きく伸びたが、最近 10 年間をみるとその差が縮まっておらず、2030 年以降、平均寿命が伸びても、健康寿命が大きく伸びるとは考えにくい。

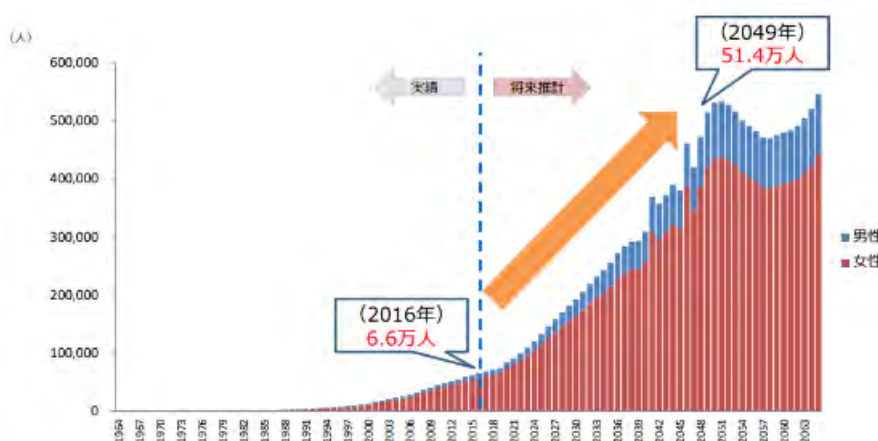


図 24 100 歳以上人口の推移

出所：経済産業省：「2050 年までの経済社会の構造変化と政策課題」（産構審・2050 経済社会部会資料）（2018 年）